

病理専門研修プログラム

診療科の特色

幅広い研修と選択枝

病理専門研修の特色は知識のみならず技能や態度にも優れたバランス良き病理専門医を目指すことにあります。信州大学医学部附属病院病理専門研修プログラムに参加することにより、多彩で豊富な症例を経験できます。また学術的な活動にも積極的に参加が可能です。将来は病理診断を主体とする病理医や、研究者としての病理医など、様々な活躍の選択肢が広がります。

この研修プログラムには病態解析診断学教室(臨床検査部/病理診断科)、病理組織学教室、分子病理学教室に所属し参加することが可能です(病理組織学教室、分子病理学教室に所属しての参加は大学院生として可能)。

信州大学医学部附属病院病理専門研修プログラムの概要と特徴

本プログラムは信州大学医学部附属病院(以下 信大病院)を基幹施設とするプログラムです。専門研修施設群はすべて長野県内の施設です。連携施設には県内ほぼ全ての地域中核病院が参加しており、地域中小病院も多くが参加しています。

信大病院においては、全臓器に及ぶ幅広い症例を経験できます。また研修施設群内では病理専門医試験に必要な剖検症例は十分確保されています。指導医も十分確保されています。信大病院ではカンファレンスの場も多くあり、病理医として成長していくための環境は整っています。さらに症例報告や症例研究などの指導体制も整っています。常勤病理医のいる連携施設では、地域医療の中で病理診断の持つべき意義を理解した上で診断の重要さ及び自立して責任を持って行動することを学ぶ機会とします。常勤医不在の施設での診断に関しては、診断の報告前に基幹施設の病理専門医がチェックしその指導の下最終報告を行います。

本プログラムは専攻医の希望を尊重しつつ地域の実情に合わせた可塑性のあるプログラムです。研修期間は3年間で、信大を中心に研修するコースや、連携施設1年間の研修を組み込んだコースなど(後述)が選択できます。

専門研修の魅力

信州大学医学部附属病院病理専門研修プログラムでは病理専門医取得にあたり、当プログラムで経験できない疾患や領域はありません。研修施設群内で協調しながら、質の高い総合的な病理専門研修体制を構築しています。

信大病院での病理専門研修は以下のような様々な側面から充実を図っています

診断業務では、屋根瓦方式の指導教育体制をとり、一人の研修医に対して複数の上級医が指導に当たっており、偏りのない普遍的な指導を受けることができます。

病理組織標本は毎朝開催されている、全員参加の検討会で全症例を供覧し、症例情報の共有や診断精度の向上に役立てており、多くの症例を経験することができます。また症例から学ぶ姿勢を基本にしながら、科学的な証拠に基づいた診断を行う方法や習慣を学べます。

剖検症例は全例CPCで取りあげ、医療の妥当性について各科と意見交換を密にしています。従って様々な剖検例について深く学ぶことが可能です。

当科では病理検体を提出するほぼ全ての臨床科と、定期的な症例検討を開催しています(消化管病理検討会、骨髄血液症例検討会、肝生検症例検討会、腎生検症例検討会、脳神経外科病理症例検討会、乳腺甲状腺症例検討会、整形病理検討会、呼吸器病理検討会、皮膚病理検討会、内視鏡検討会、婦人科病理検討会、肝胆膵病理カンファレンスなど)。これらは将来のサブスペシャリティ選択においての参考にもなります。

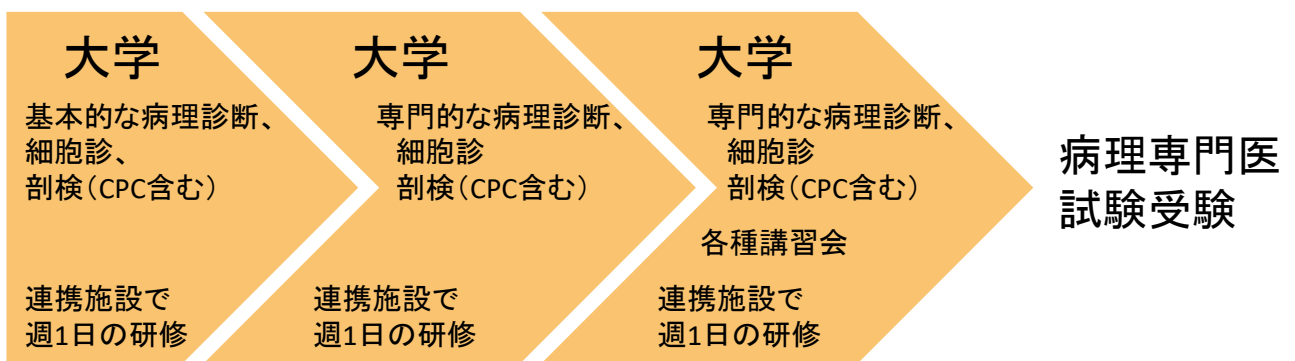
研修を通じて、最新の知識、技能を常にアップデートし、生涯を通して学び続ける習慣を身につけます。更には、日頃の診療で得た疑問や発想を科学的に追求するため、症例報告あるいは研究発表を奨励し、その機会を数多く提供します。

研修期間:3年間

専攻医3年間はプログラム構成病院での研修を行います、のべ最低半年は連携病院での研修に充てます。信大病院において症例経験や技術習得に関して、単独で履修可能であっても、地域医療を実践するため、複数施設での研修を行うことが望ましく、いずれのコースにおいてもその経験を求めます。連携病院へのローテーションを行うことで、人的資源の集中を避け、派遣先の医療レベル維持にも貢献できます。連携施設では地域医療の中で病理診断の持つべき意義を理解した上で、診断の重要性及び自立して責任を持って行動することを学ぶ機会が得られます。

研修予定(代表的なコース)

基幹施設を中心に研修を行うプログラム



基幹施設を中心として1年間のローテーションを行うプログラム



大学院生となり基幹施設を中心としたプログラム

